

## カワイピアノコンクールの審査について

### ソロ部門 Sコース

#### ●課題について

予選会・全国大会ともに、課題曲と自由曲を設定しています。  
審査においては、課題曲と自由曲それぞれの完成度を総合的に評価します。

予選会の課題曲は、J.S.バッハの作品となっています。これは、バロック音楽の時代の様式や各楽曲の特徴をふまえた演奏をしているか、多声部を聴き分けながらどのような演奏表現をしているかを観るものです。自由曲は、演奏者個々が最も得意とするタイプの楽曲で、自身が求める音楽を存分に表現してもらうことを目的としています。

全国大会の課題曲は、ロマン派から近代の作曲家による、様々な演奏技術を含んだ作品となっています。これは、各楽曲に含まれる技巧的なパッセージをより音楽的に演奏しているか、ピアノの持つ表現力を最大限に発揮させながら全体を仕上げていくかを観るものです。自由曲は、演奏者の作品への深い理解力を観ると同時に、課題曲と合わせたプログラム構成にあたってのセンスや演奏への集中力、そして何よりも自身が表現したい音楽をいかに聴き手に伝えられるかを総合的に評価します。

#### ●審査の観点

審査にあたっては、次に掲げる諸項目を重視しています。

- ・楽曲の音楽構造を理解し、曲の特徴を捉え、咀嚼したうえで演奏表現を創り上げているか。
- ・様々なパッセージを確かな技術力で美しく演奏しているか。
- ・美しい響きを作り上げることへのこだわりが感じられるか。
- ・その人ならではの演奏表現ができているか。
- ・最後まで演奏する集中力が十分であるか。
- ・聴衆に聴かせる意識を持って、演奏表現を行っているか。

## ソロ部門 Aコース・Bコース・Cコース

### ●課題について

予選会は、古典派の作曲家によるソナタ・ソナチネ・ロンド、シューベルトのソナタ・即興曲の演奏を課題としています。これらの各楽曲は、ピアノ演奏の基礎となる諸要素を含んでおり、演奏者がそれらをバランスよく習得しているかどうかを観るものです。

地区本選会は、各コースに2つの課題を設定しています。

1つは、全コースにJ.S.バッハが教育的なねらいを持って作曲した作品を課題としています。これは演奏者が、ポリフォニックな音楽の演奏にどの程度習熟しているかを観るものです。

もう1つは、Aコースでは自由曲を設定しています。これは各自が選んだ得意なジャンルでの選曲により、楽曲への理解の深さや主体的な表現がなされているかどうかを観るものです。

B・Cコースでは、近代～現代の作品を課題としています。これは新しい時代の作品の成り立ちや特徴をどのように捉え、その響きを聴き手にいかに伝えるかを観るものです。

全国大会は、各コースに課題曲と自由曲を設定しています。

課題曲は、地区本選会后に全国大会出場者に提示され、全国大会までの限られた期間内で、課題のねらいをどこまで理解し、曲として仕上げられるかを観るものです。自由曲は、演奏者個々が最も得意とするタイプの楽曲で、自身が求める音楽を存分に表現してもらうことを目的としています。選曲の感覚も含めて総合的に評価します。

### ●審査の観点

審査にあたっては、次に掲げる諸項目を重視しています。

- ・楽曲を理解し、曲の特徴や要素（拍子、リズム、デュナーミク、フレーズ、和声の動き、多声部間のバランスなど）を捉えた演奏表現を行っているか。
- ・時代ごとの様式感、曲種による音楽の特徴、作曲者の作風を的確に捉えて表現しているか。
- ・様々なパッセージを美しく演奏する技術が十分であるか。
- ・ペダルの使用が適切であるか。
- ・音に耳を澄まし、美しい響きを作り上げることへのこだわりが感じられるか。
- ・以上の項目をベースに、その人ならではの音楽表現ができているか。

## 連弾部門 Aコース・Bコース

### ●課題について

予選会は、A・Bコースともに古典派から現代までの作曲家による連弾曲の中から2曲を課題としています。これらの楽曲は、演奏者が共に各コースに相応しい演奏技術を習得しているか、お互いのパートを理解しながらアンサンブルを行えているかどうかを観るものです。

地区本選会は、Aコースでは自由曲を設定しています。これは演奏者同士が協議して楽曲を選定できることから、主体的な演奏表現を期待するとともに、そのペアならではのアンサンブル表現がなされるかどうかを観るものです。Bコースでは、予選会と同じ課題内容から2曲を課題としています。これは、生徒同士の連弾という形態での学習期間が短いことを考慮しながらも、アンサンブルの技術が習熟しているか、各楽曲の特徴を捉えた演奏表現になっているかを観るものです。

全国大会は、A・Bコースともに課題曲と自由曲を設定しています。

課題曲は、地区本選会后に全国大会出場者に提示され、全国大会までの限られた期間内で、課題のねらいをお互いに理解し合い、アンサンブルとして仕上げられるかを観るものです。自由曲は、演奏者2人の音楽的個性とアンサンブルならではの音楽表現を存分に発揮してもらうことを目的としています。

### ●審査の観点

審査にあたっては、次に掲げる諸項目を重視しています。

- ・楽曲をよく理解し、曲の特徴や要素（拍子、リズム、デュナーミク、フレーズ、和声の動き、声部の役割など）を互いに共有しているか。
- ・様式感、曲種による音楽の特徴、作曲者の作風を的確に捉えているか。
- ・楽曲の表現に相応しい演奏の技術が各々十分であるか。
- ・アンサンブルの要素（バランス、駆け引き、呼吸など）が整えられているか。
- ・互いの音に耳を澄まし、ペダリングをはじめとして美しい響きを作り上げようとする姿勢が感じられるか。
- ・以上の項目をベースに、そのペアならではの音楽表現ができているか。